

第10回定例委員会会議録

教 育 長) 開会宣言

教 育 長) 会議成立の宣言

教 育 長) 会議録署名委員の指名（木村委員）

教 育 長) ここでお諮りいたします。専決報告第16号「芦屋市青少年問題協議会委員の委嘱について」ですが、これは次の専決報告第17号「芦屋市青少年愛護センター運営連絡会委員の委嘱について」とも関連する内容ですので、一括で審議したいと思いますがご異議ございませんか。

〈異議なしの声〉

ご異議なしと認め、専決報告第16号と専決報告第17号を一括して審議します。

それでは審議に入ります。日程第1、専決報告第16号と専決報告第17号の提案説明を求めます。

青少年育成課長) 〈議案資料に基づき概略説明〉

教 育 長) 説明が終わりました。質疑はございませんか。

手元の芦屋市立青少年愛護センター運営連絡会設置規則第3条で芦屋警察署生活安全課長に入ってもらっています。ここが変わったということですね。

青少年育成課長) はい。

教 育 長) 他に質疑はございませんか。

無いようですので、これをもって質疑を打ち切ります。

これより採決いたします。本案は、原案どおり承認することにご異議ございませんか。

〈異議なしの声〉

ご異議なしと認めます。よって専決報告第16号と専決報告第17号は承認されました。

〈専決報告第16号・第17号採決。結果、承認（出席委員全員賛成）〉

教 育 長) 続いて、日程第2、報告第8号「平成27年度全国学力・学習状況調査の結果について」を議題とします。提案説明を求めます。

学校教育課長) 〈議案資料に基づき概略説明〉

教 育 長) 説明が終わりました。質疑はございませんか。

素朴な質問でも何でも結構ですので、よろしくお願いします。

松 本 委 員) ここで聞いてもわからないかなと思いますが、自尊感情や自己肯定感の低さはずっと言われており、PTAでも幼少期がとても大事だと言われているので、幼少期の何歳児健診というときなどに、芦屋市の子どもの学力調査ではこういうふうに出ているのですよと、お母さんに将来が見えるような形で紹介してあげるなど、そういう形はとれないのでしょうか。

子どもが小さいときは周りと比較してしまって、早く教育を受けさせないといけないのかなど、みんな、いろいろ我が子のためと考えるのですが、小さいときに、幼少期の関わりが思春期にこういう形で現れるということを知っていて、そういうところにもっと心を砕いていたらなということはあるので、具体的に、大きくなってこういう調査をするとこのようになっていると聞くと、もう少し将来を見据えることができると思います。子どもが小さいときは、目の前のことがとても大変なので、早く勉強させることが大事なのではないかとか、その

ようなことを考えてしまいます。一般的な話としては、今はだっこしてあげるのが大事ですよと聞いていても、具体的な話を聞くと、もう少しぴんと来るのかなと思います。そのような連携がとれるといいなと思います。

小石委員)　　こういうことがどのくらい一般的に言えるかどうかわかりませんが、日本の子どもを育てるときの言葉として、もっと頑張ってくれとか、例えば80点をとると、もう少し頑張れば90点がとれたとか、期待の裏返しのようなところがあると思います。

よくわかりませんが、アメリカでは、何かいいことがあった場合、すばらしいなどと言うような、多分、そういうような違いがあると思います。

ただ、もう1つ、このような調査を行うと、日本人は比較的こういう答え方をします。自分にいいところがあるのだというふうな、そういう答え方をなかなかしないということです。全国的にも低いです。本当に、心理的に、そこまでネガティブに思っているかということ、そうではありません。答え方はこう答えています、もう少し自分の自尊心を持っている可能性があります。やはりそういうところがあるのではないのでしょうか。ですから、どうしたらいいのかということ、先程言ったような意味では、いいところを見つけてあげるような、これは先生の役割ですし、親も同様です。それは一方でやらなければいけないのですが、この解釈の仕方は、注意して見ていかなければいけないと思っています。

急激に高くなることが本当にいいことなのかどうかも含めて、

この数字の見方はいつもそういうふうに考えてみているところ
です。どうしたらいいのか、難しいところです。

木村委員) 学校もありますが、家庭でどういう感じなのかということ
も大きいと思います。この自己肯定感は学校だけの問題ではな
いのですね。親がどういうふうに接しているかという問題が一
番大きいわけですからね。

小石委員) 中には松本委員がおっしゃるように、兄弟で比べられて物
すごく劣等感を持っている子は現実におります。そういうこと
は、本当に問題視しないとイケません。この子たちがそのこと
によってそれをどういうふうに受けとめているのかということ
を、中身についてももう少し丁寧に見ていく必要があると思いま
す。芦屋は、全国よりも少し低いですし、前回よりも低くなっ
ています。その数値はどうかという考え方もあります。前回より
低くなっていること、全国よりも低いということは、芦屋の親
たちがとても期待を持っているのかもしれない。

木村委員) 世界各国こういう傾向でしたらいいのですが、日本だけ突
出してこの自己肯定感が非常に低いですよね。

小石委員) ええ、全体を見てもそうなのです。

木村委員) 昔から日本ではそうだったのであれば別に気にする必要は
ないのですが、グローバル化して行って、世界の中に出ていか
なければいけない中で、日本人だけが肯定感が低い状況でいい
のかとは思っています。もしかすると日本文化に根差している
ものなのかもしれませんが、そうであれば、少し変えていかな
いと、これからの社会ではまずいのかもかもしれません。

小石委員) それはそうですね。例えばよく言われるように、アメリカ

などへ行って、わかっているが黙っているとわかっていないと思われる文化と、日本のこれまでの文化とでは、適応していく上では将来的にどうなるかは考えないといけないのかもしれませんが。

木村委員) ある意味、日本人の奥ゆかしさのようなものが、日本では美德でも国際社会では全く通用しない、そういう問題ですね。

小石委員) はい。その辺りの日本人の価値観のようなものを反映していることも考えて、この数字を見ないといけないと思います。しかし、松本委員がおっしゃるように、ポジティブなところはポジティブなものとして、きちんと伝えてあげるということは常に言っておきます。先生の役割は、絶対に子どものいいところを探すことだと私は思いますから、それはぜひそうしてほしいですね。

教育長) 前回の議会において、一般質問で議員からいじめの問題が出ました。そのときに私が答えたのですが、いじめの解決策に、クラスの中で発言ができる、また聞いてもらえる。そして、その意見に対してみんなからいろいろな意見を述べてもらえるという、認め合うことが大切だということです。わかっていると言わないことが中学生ではあります。学校に来ている時間で一番長いのは授業を受けている時間ですから、学校運営の中でそこを大事にしなければなりません。

学校というものは、怒ることはよく怒るのですが、褒めることが少ないので、いいことがあればどしどし褒めてあげること、そして認めること、おかしければそれを論じてあげること、こういうことを1つの循環として、芦屋の教育に大事にしてい

なければなりません。

全国学力状況調査の結果にあらわれることですが、落ちついたクラス、落ちついた学校運営をすれば、おのずと、全国平均を超えることは難しい問題ではないと思います。教育委員会としては、人の話が聞ける子どもにする、そのためにも、先生のクラス運営を上手にしていくことのできる力量を高めてもらうことも大切です。同時に、そういうことをPTAや保護者の皆さんに訴えていくことも重要であると思います。

昨日も各3中学校で、小学校の先生に来ていただいて、小中の研究会をしました。そういうことを地道に繰り返していくことだと思っています。

松本委員) 実際に見ていると、小学校でも具体的に認め合うようなことを行っておられると感じます。中学校でも昔と違って褒めるほうにシフトしているとも感じます。しかし思春期の関係で、中学生になると、小学校で積み上げてきた能力を発揮しなくなる、子どものその辺りの心理がわかりづらいです。子どもが小学校のときと中学校のときでは違うという、そこをつなぐ秘策のようなものがないのかなと、そのように見えています。

小石委員) 年齢的な特徴はあります。自分を客観的に見ることができるようになるし、他人と比較することができるようになりますからね。これは、エピソードとしておもしろいと思っていることなのですが、昔、中国の人が日本で中国語を教えていてとてもやりにくく、発言を求めてもみんな言わないそうです。ほかのところでは教えていたら、全く違っていることでもどんどん言う。場合によっては、指名したら問いが何のことかわからな

いのに手を挙げていたなど、そのぐらい一生懸命だそうです。
それだけの違いを中国の人がおっしゃっていました。

やはり、そこにある文化的な背景は自分をあまり出さない、
主張しない部分です。しかし、そういうものが出しやすい雰囲気
をできるだけ上手につくっていくことは大事な課題だと思います。

浅井委員) 学習状況調査で、今、出ていました「いじめはどんな理由
があってもいけないことだと思う」、これが小学校から中学校
でかなり下がっているところが問題点だと思いました。その手
前の7番、「自分の考えや意見を発表することは得意である」
という問は割と低く、小学校でも56.8、中学47.9です
よね。しかし8番、「友達の話や意見を最後まで聞くことがで
きる」という問は、芦屋で90.4や90.2の高い割合です
が、果たして本当によく聞いているのかと思います。聞してい
るつもりでも相手の考えや立場、主張を本当によく理解して聞
いているのかというところをもう少し丁寧に確かめてみたいな
という気がしました。

同じページですが、よく見るとゲームも余りしていないし、
テレビも余り見ていません。では何をしているのかというと、
結構勉強をしています。塾に行っている子どもが小学校で68.
9です。学校の先生も、塾に行っている子どもが多いため、そ
の授業の切り口がとても難しく、「それは知ってる、これも知
ってる」と言われてしまって困るという状況もあるとお聞きし
ます。小学校でこれだけ高い割合で行っているということは、
成績もいいのでしょうか、どうなのかなと思います。ゲームも

していない、テレビも見ていない、勉強はしていて、外で遊んだりする時間は結局とても少ないのだらうなということが問題点かなと思いました。

いい点で言うと、約2年前のデータから見ると、50番ぐらいですが、国語の授業のことで、国語の勉強が好きだという割合が、とても増えているのですね。上がり幅が大きいと思います。これは何か理由があるのでしょうか。お尋ねしたいと思います。

そして、読書も少しですが伸びてきています。国語が大分上がっているのではないかと思うのですね。子どもたちが好きだとか授業がわかるという、ここは何か、特に手だてや方策があったのかなと思うのですが。

学校教育課長)

はっきりとこれだということはお答えできないのですが、国語につきましては、昔から芦屋の中では非常に熱心に、多くの先生が国語の研究を進めていっておいりました。やればやるほど、どちらかという、自分のやりたい、進めたい授業へ持って行ってしまい、子どもたちを置いて、何とか自分の方向に進めていこうとするところがありました。例えば体育でも、何とか逆上がりをさせてやりたいと。ああだこうだといろいろ言うことで、結局子どもたちも逆上がりが嫌いになってしまうということで、やり過ぎるとなかなかうまく回っていかない部分が今までであったかなと感じています。

ただ、現在、言語活動を非常に盛んに取り入れていますので、子どもたちが主体的に国語の授業に参加していく、話し合い活動に参加していく、そういった授業を主体的に進めてきている

結果は少し出てきているのではないかという気がいたします。

浅井委員) 　少し低迷していたところが上がってきたこともあるのでしょうかね。

算数でも数学でも表現力が要ると荒谷先生はおっしゃいましたが、やはり全て、国語力がようになってきますので、これはいい傾向だなと思いました。

教育長) 　永松先生は今までに学校長もしていて、これを見て何か感じることはありますか。今の、委員からの発言なども聞いていて。

打出教育文化センター長) 　やはり子どもの成長にとって環境というのは大きいなと思います。先日、隣の幼稚園で保護者の方に、小学校生活に向けて話してほしいと言われましたので、少し話をしたのですが、早期に教育をつけないといけないのではないかと思います。英語が始まるというと英語を習い始めることに走るよりも、子どもを信じて、子どものしたいようにさせてあげてほしいという話をしました。もっと親として、人としてゆったりと接しませんかという提案をさせていただきました。

それがどれだけ伝わっているのかはわかりませんが、本当に自分の子どものことを信じて待つ親のゆとりというか、そういうものが私は必要になってくると思います。

かといって、先ほどからおっしゃっている、日本人の、自分の意見を余り明らかにしないという点、それは言語活動の充実を進めていく中で、自分の意見を発表し、そして周りの友達の発表を聞いて、またそれを自分で取り入れていくという、この繰り返しで力をつけていく方向なのではないかと感じています。

学校教育部長) 数字だけで全ての子どもたちの状況がわかるということではないと思っています。例えば、数学の授業がよくわかると答えている子どもは、実は26年度では80%でした。80%という数値はとても高く、数年とった中では実は一番高い値でした。では27年度の結果はというと、それが少し下がっていますが、成績自体は上がっているということもあります。やはり子どもの感じ方も変わりますし、それから子どもも変わります。ですから、余りその数字だけで、教育の結果を全て見てしまうことはなかなか難しいのかなと考えます。こういう傾向があるのだということをとらえていくことが必要ではないかと思っています。

本に関して言うと、確実に数字が上がってきているのは中学校の図書の貸し出し冊数です。このあたりで少しずつ、ベースとしては、本との距離が中学校も少し縮まってきたかなという傾向は読めますが、それも1つの数字の読み方であって、全てではありません。あくまでもこれは1つの傾向を知るための参考資料だと思っています。

教 育 長) これは広報あしやにも載せるでしょう。どこまで載せるのですか。

学校教育課長) 資料としてはこれをお渡しておりますので、この中から抜き出しての情報になります。そのため、当然ですが2ページの全国の生徒の比較や質問肢の中での特徴的なところなど、そういったところが出てきます。

教 育 長) 市民の皆さんは、委員の皆さんにお配りしている報告について見れるということですね。

学校教育部長) 広報に関して言うと、この教科ごとの細かい、黒丸、白丸がついている部分については、そこまでは出ませんが、それ以外の、いわゆる全体的な成績と、質問肢の中の抜粋です。それから教育委員会としての取組、このあたりが載る予定にはなっています。

付け加えですが、例えば全体の8ページのところで、先ほど指摘がありました学習や生活に対する意識、実態についてというところのパーセントの話ですが、例えばそれぞれに該当する値を求めるとき、それに「当てはまる」という回答と「どちらか」というと「当てはまる」という回答まで入れるのか入れないのかということで、パーセントは大きく変わります。

実はその区別は、例えばこの表の中でも括弧書きで、「どちらか」というと」とついているものは入れているのですが、この8ページに挙がっている分では入れていないのです。ですから、例えば1番の「学校のきまり(規則)を守っている」というものが、例えば小学校で38.1%とありますが、これが「どちらか」というと「守っている」を入れると50.1%ありますので、合わせると、88.2%になります。中学校で言えば、「どちらか」というのも入れれば92.9%。「自分にはよいところがある」というところについても、例えば小学校であれば42.5%に39.6%が加わりますので、実は82.1%です。中学校でも24.8%に41%が加わりますので、65.8%になるのですが、ほかのものも第1の「当てはまる」としただけでも70%の値を持つものもありますので、「どちらか」というと」も合わせて表にすると若干課題が見えにくくなる

だろうなというところで、この6つについては「どちらかというと」を含まない値で、特徴的なところをとらえているということです。

逆に言えば、余り悲観しなくても、悲観し過ぎることはないのかなと思います。奥ゆかしいところもあるのかなというところですが、積極的にそういうふうに分で感じる子どもを育てていきたいという意味で、この第1番目だけを載せているということがございます。

小石委員) 教育というテーマでもあるのですが、我々もよく評定尺度でいろいろ調査をします。そうすると、日本人は両極端なことは余り書かないのです。大体は真ん中で、中国やアメリカなどでは両極端なことが結構出てくるのです。ですから、そういうものを反映している可能性はあります。これは仮説なのでこうだという結論はつけられませんが、ざっと見ていて、文化で比較をすると、そういう傾向が結構出ます。

それは日本人が控え目だということもあるし、さらに言うと、客観性のようなものもあります。こういうものを見たときに、いろいろな情報がぱっと頭に思いついてぱっと答えるような客観性のようなものがひょっとするとあるのかなと考えています。だから、そういう意味では先生がおっしゃるように悲観しなくてもいいのかもしれないです。

学校教育部長) 逆に言えば、「いじめはどんな理由であってもいけないことだと思う」という割合が、83.7%と小学生が、1番としてつけたというのは、大きいなと思います。どちらかということも入れると90%以上になるのですが。

木村委員) これは、いじめの定義で変わってきます。昔の定義でしたら私は絶対だめだとなりますが、今の定義で、被害者が苦痛に感じると全ていじめかと言うと、それは、やはり言った側にも理屈がある場合があるとなるので、正直、今の定義なら私は「どんな理由があってもいけないことだと思う」という問に丸はしません。

中学校はある程度、もしかするとそこまで考えているのかもしれない。いじめの認識はどういうところにあるのかということによって回答を考えてみなければ、よくなっているのか悪くなっているのかわからないですね。そういうところも少し踏み込んでみないといけないと思います。

小石委員) 調査結果については、本当に気をつけて見ないといけません。よくソーシャルデザイラビリティと私達は言うのですが、社会的望ましさ、そのようなもので反応してしまうこともあります。こちらが社会的にはいいのだろうなということに引っ張られることもありますから、こういう数字を余り硬く見ないほうがいいと思います。自分のことはとても控え目にしますが、一般的な話だと社会的にいいほうに見るという反応が出てくる可能性もあるのです。ですから、余り絶対的に見ないで、全体をおおまかにとらえるぐらいにして、我々はどう考えるかというふうにしたほうがいいような気がします。

教育長) 数字というのは誤解を招く、一人歩きするときがあります。意見を言う中で、保護者の理解を得る、協力を得るためのひとつの物差しとして、数字は効果的です。

小石委員) 質問、13、14番のところに、1日当たり3時間以上と

ありますが、これはもちろん市の問題ではなく、一般的にこの
問い方、小学生で、基準として3時間というのは、どうですか。
先生方の感覚として、それは子どもたちに求めているものです
か。これは塾へ行っている子どもであればどうなりますか。

浅井委員) 塾も含めてですね。

松本委員) しかし毎日では。

浅井委員) 小学生でしたらすごいですね。

松本委員) 塾で2時間、週2回で、平均するともう少し少なくなって、
予習復習や学校の宿題を入れるとこうなるのでしょうか。

小石委員) 塾が入っているからこうなるのでしょうか。いや、3時間
はとても長いなと思いました。

教育長) 高校生でよく4時間と言いますね。3時間勉強していたら
多いですよ。

木村委員) 高校生で大学受験の前でしたらそのくらいするのしょう
が。

松本委員) 6年生では多いですね。

教育長) 3時間はすごいなと思いますね。

小石委員) もちろんその数値は少ないのですが、この問いで、この基
準がどれだけのものなのかと思いました。

もう1点、理科の先生もおられるので、こちらの7ページの
ところに、好きかとか、役に立つかとありますが、ここでおも
しろいなと思ったのは、子どもたちがどういうイメージで役に
立つと答えているのだろうかということがすごく気になりました。
生活の中で役に立つと思っているのか、受験のために役に
立つと思っているのかという意味からすると、全く違うでしょ

う。

それで、ここを見て気になることは、教科で言うと、国語や算数より理科のほうが、好きが少し多いです。それなのに、わかるということになると、理科が少し少ないですね。好きだけどわからない。それで役にも立たないという、理科のように実質陶冶のようなものだと、生活に近いと、こちらのほうが役に立ちそうなイメージがあります。実質陶冶のほうが役に立つと反応するのはどういう心理かと思いながらこの数字を見ました。

管 理 部 長) 受験があるのかもしれないですね。

木 村 委 員) そうですね。

浅 井 委 員) 将来というのが社会に出たときとなっていたら、そうでしょうが。

小 石 委 員) どういう感じなのかと少しおもしろいと思いました。社会や理科は本当は実質的な、身近なところの教科ですからね。

浅 井 委 員) 私が感心したのは、理科に関して、中学生の65%しかよくわかると言っていないのですが、将来理科や科学技術に関係する職業につきたいと思う人が案外多いでしょう。それは少し感心しました。

学校教育課長) わかりたいのでしょうね。

浅 井 委 員) そうですね、好きなのでしょうね。

教 育 長) そういう意味で言えば、我々が子どものときも英語が好きでした。英単語は物すごく好きですね。日常会話で英語の単語が多く入ってきます。しかし、しゃべれるかと言うとそうではないところがあります。理科でも、身近にあり、興味をもって

います。しかし、将来自分が学者になったり、こういうものをするかと言うと、それは違うところがあったりします。児童・生徒は身近なものに興味・関心を持ってほしい、学校の先生は自分の言葉として丁寧に説明し、物の見方などを大事にしているしてほしいなと思います。

小石委員) この中で、教育について少し考えていかなければいけない、考えてほしいと思うのは、勉強の方法や勉強のやり方など計画を自分で考えて行っていけるような育て方です。

最近では自己調整学習という言葉があるのですが、自分で何かを工夫して行う、勉強の仕方を学ぶというか、そういうところにも、ぜひ力を入れて取り組んでもらえるといいなと思っています。

教育長) それは本当に大事なことだと思います。ただ言われたことだけをするのではなく、ノートの取り方1つにしてもアクティブになるように、ぜひ事務局としてもそういう取組を進めていきたいと思っています。

木村委員) 今の問題に関連してですが、知的に自分自身が大きくなっていくといいですか、学ぶことによって自分の価値が上がっていくと。それを広い意味で見ると生きる力になっているのですが、受験がどうか、そういうことではありません。勉強だけではなく、スポーツでも何でもそうだと思いますが、追求することがとてもおもしろくなっていく、そのサイクルの中で、前よりも自分が頑張ったら点数が上がった、次はもう少し頑張ってみようかというように、そこでとても自分が興奮するというか、おもしろくなっていくと成績が大幅に伸びるところがある

と思います。自分の中で1つのゲームのような感じでそれを追求していくと、勉強自体がおもしろいというところにはまると伸びるのですね。

ある意味そういうふうに、知的に成長することの喜び自体を子どもが感じられるかどうかです。知的だけではなく、音楽でもスポーツでも全てそうです。生活をきちんと、規律を守ることでもそうですが、成長の喜びを自分で感じられるかどうかにつながっていくと思います。それをどういうふうに与えていくのが大切なのかなと思います。

ですから教える側も、そういう点でおもしろいと子どもが感じられるように、将来受験のために役に立つというのではなく、そこを抜いて、それだけがおもしろいという形の教え方ができたらいだろうと考えます。これは理想論なので、現実的にはなかなか難しいかもしれませんが、そのようなところを教育する側はどこか頭の中に入れておいてほしいなと思っています。

教 育 長) ありがとうございます。

最後に、教育に携わる者として、勉強はしんどいものだとか嫌なものだということを経験から植えつけるのではなく、わかったときのうれしさ、褒めてもらったときの喜び、できたときの達成感、小さなことでもいいのでそこに気がつく先生であったり、周りであるような取組を進めていけたらと思います。

小 石 委 員) 全体に差がついているのか、どこか特徴的に、学校による差があるのか、それは読みながら気になりました。

松 本 委 員) 個別のことですが、語彙のことで、自分の子どもでも語彙が少なくなっていると思うのですが、小学校の国語Aの引用の

部分が低かったことがとてもショックでした。これは、引用という言葉の意味がわかっていたら絶対にできる問題ですが、この低さは、以前から語彙についてはこのようなものなのか、今、低くなっているのか、傾向などがあれば、お聞きしたいなと思っていました。

教 育 長) 引用という言葉は何年生で習うのですか。

松 本 委 員) それは決まっているのですか。

教 育 長) 6年生まで引用という言葉を知っていなかったら知らないですから。

学校教育課長) 引用という言葉は漢字では何年生で習いなさいということはあるのですが、この言葉は何年生までに習いなさいということはないと思います。ただ、引用文をとということは学習要領にも出てくると思います。

教 育 長) 3、4年生のときに引用という言葉は習っているのですね。

学校教育課長) 5年生までには必ず出てくると思います。

松 本 委 員) 全国も低いのですが、6年生が引用を知らないのかなと思いました。

木 村 委 員) 引用という言葉自体は、きちんと教えられないと難しい概念だと思います。

浅 井 委 員) 少しひっかけのようで、「ある作家の言葉に」という箇所から書き始めがちな気がしませんか。少しひっかけられそうな気がします。

管 理 部 長) この問題文を見ると、少しひっかけがあります。「世界では本の日とも呼ばれている」や、「子どものころ宮沢賢治のゴーシュに夢中になった」あたりです。

浅井委員) 少し難しい。

松本委員) 難しいのですかね。

管理部長) 紛らわしいかなという気もしなくもないですね。

松本委員) そうですか。しかし本当に引用という言葉を知っていたら、ここしかないとなる問題なのですよ。

木村委員) 「ある言葉を引用しています」というのが何か。そこがある作家の言葉にとなることがわかっていればある程度答えられるのではないのでしょうか。

松本委員) 細かいことに戻ってしまって済みません。

教育長) 今いただいた意見を、また事務局も集約してみてください。

他に質疑はございませんか。

無いようですので、これをもって質疑を打ち切ります。

これより採決いたします。本案は、原案どおり承認することにご異議ございませんか。

〈異議なしの声〉

ご異議なしと認めます。よって本案は承認されました。

〈報告第8号採決。結果、承認（出席委員全員賛成）〉

教育長) 続いて、報告第9号「平成27年度「秋の公民館講座」等の開催について」を議題とします。提案説明を求めます。

公民館長) 〈議案資料に基づき概略説明〉

教育長) 説明が終わりました。質疑はございませんか。

浅井委員) NHKの公開講演会は、かなり人気だとお聞きしました。クレオパトラも大英博物館もルナ・ホールですが、大体キャパとしては700人ほど入ると思うのですが、どれぐらいの人数で締め切られる予定でしょうか。

公民館長) 申し込みの数を本日持っておらず恐縮ですが、1,000人は超えていたと思います。座席の数は660人ですので、欠席される方を少し見込んで、660人よりも少し多い数を当選者とします。

浅井委員) では目いっぱい着席で大丈夫ということですね。

公民館長) NHK公開講演会は、これまでも実施しております。経験上、660人でも、実際には欠席されて少し人数は減りますので、少し多目にはしております。ただ、今回の場合は、クレオパトラも大英博物館についてもかなり人気で、両方とも今までにない応募者数でした。この企画自体はNHKさんからこれがやりたいのですがという形なのですが、これは少し大変だなと思います。俗っぽい言い方をすると落とさなければいけないので、苦情が来て困るということもあります。

浅井委員) もう申し込みは締め切られているわけですね。

公民館長) はい。

浅井委員) わかりました。

教育長) たくさん来ていただいて喜ぶ反面、少なかった場合講師の方に申しわけないなど、イベントを打つときには常にその苦勞がありますね。

松本委員) サイエンス・トピックスは、これまでで一番難しいということで、他市からも来られるとおっしゃっていましたが、これも申し込みは多いですか。

公民館長) その情報を持ってきていないのですが、まあまあの申し込みはあったと思います。

松本委員) そうですか。

公 民 館 長) 古代国家のほうはかなり研究されている方です。

松 本 委 員) 歴史が好きな人が。

公 民 館 長) 好きな方がお越しになります。サイエンス・トピックスのほうは、定員と同じぐらいの申し込みがあり、定員割れではなかったと思いますので、来られると思います。

松 本 委 員) そうですか。私も行きたかったのですが、日にち的に無理でした。しかし、他で現代美術の講座を申し込んだときに私1人だったことがあったので、もしかして難しい講座だと少ないこともあるのではないかと思いました。しかし、この募集ぐらいいは来られるということですね。

公 民 館 長) レベルが高い講座をしても、芦屋の方はついてこられます。レベルという言い方がいいのかどうかわからないのですが、ある程度の専門性のあるものを行っても大丈夫です。ただ、先ほども言いましたように、公民館講座は、あくまできっかけづくりですので、そこの入り口を高くしてしまうと目的とは合わないようなところがあります。たまに、委託で行っているのですが、本格的なものをしてみたいという提案がありまして、実施してみようということでした。

松 本 委 員) ありがとうございます。

浅 井 委 員) 定員に満たなくても開催した方がいいのかもしれないですね。それなりの専門性を備えて、聞きたい方もいらっしゃると思います。少しマニアックですが、そういうものもあってもいいのかなとは思っています。

サイエンス・トピックスで、締め切りが9月28日までとなっていますが、仮にまだ定員に満ちていない場合はこれから申

し込んでも間に合うということですか。

公民館長) はい。定員に満たなかった場合は、その後、当日来られても受け付けしています。電話がかかってくるので、定員に少し余裕がありますから、当日来られても大丈夫という感じです。

浅井委員) 一応、締め切りは締め切りとしてあるのですね。

公民館長) 締め切って、定員割れではなかったと思いますから、今、申し込みされてもできないと思います。

教育長) こういう催しがあることを知らない市民も結構いるので、できるならば、公民館や美術博物館や谷崎、青少年センター、そういうところで上手にリンクして、催し物を市民の皆さんに知ってもらうようにして下さい。参加者の出ぐあいが少し遅いなというものがあれば、何か知恵を働かせるのもいいのかなと思います。余りにも少ないと講師の先生に申しわけないし。多いので怒られるのは、それは逆に喜びとして対応してもらいましょうか。

木村委員) こういう先端生命科学などに、個人的に興味があるのですが、行って、余りにも専門的な話をされ、分子式がいろいろ出てきたりすると、ついていけないわけです。しかしそれを専門的に研究している人はそういう話をおもしろいと思うわけで、どこにレベルを設定するのかということですね。ある程度そういうことに興味があって聞きたいなと思っているぐらいの人が入り口としておもしろく話を聞かせてくれるものなのかどうかです。

私はNHKスペシャルが好きで、よく見ているのですが、あれは一般視聴者のためにわかりやすくしてくれているのですね。

本当の専門家のためのものではないですが、優しい語り口でという、そういうところでレベルを設定するのか、そういう部分も講師がどれだけうまくしゃべってくれるかにもよりますね。ある意味やってみないとわからないところはあると思うのですが、目指すならやはりわかりやすくしゃべってくれる人に、できるだけお願いをするようにしていくということが、1つの策かと思います。

教 育 長) 他に質疑はございませんか。

無いようですので、これをもって質疑を打ち切ります。

これより採決いたします。本案は、原案どおり承認することにご異議ございませんか。

〈異議なしの声〉

ご異議なしと認めます。よって本案は承認されました。

〈報告第9号採決。結果、承認（出席委員全員賛成）〉

教 育 長) 閉会宣言